

# 手と手をつないで

No.373

やまぐち ひろゆき  
山口 裕之

(マザー・アース人権啓発研究所主宰)



## 「水平社創立100年を迎えて」

### 「自分の学びを」

### 「自分の行動を」

### 「水平社」をご存じですか？

「水平社」をご存じですか？太宰府市内の小学6年生が使用している教科書には「身分制度がなくなつてからも差別に苦しんでいた人々は、全国水平社をつくり、差別をなくす運動を活発にくり広げていきました」と載っています。

全国水平社は、1922年3月に結成されました。本年度で全国水平社創立から100周年となりました。

差別に苦しむ当事者自身が声を上げ、社会を変えようとした水平社は、日本で展開されてきたさまざまな人権運動の「原点」ともいえます。その理念と運動の足あとに向き合ってみましょう。

### 水平社の理念

「水平」には、「差がないこと」「人間のつくる尺度では決してはかることができない絶対的な平等」などの意味が込められています。憐れみや同情ではなく、人間を尊敬することによって、仲間とともに自ら立ち上が

り、差別のない社会をつくろうとすることを理念としました。

また、水平社の綱領には、「吾等は人間の原理に覚醒し人類最高の完成に向かつて突進す」という決意のべられていきます。単に部落差別の解消だけでなく、「この地球上に生きる一人一人が、人間としての固有の尊厳と価値をもっていて、絶対に差別されないのだ」というすべての人が平等である社会をめざしていたのです。

その理念は、「世界人権宣言」やSDGs（持続可能な開発目標）ともつながるものです。ゆえに、その時に読まれた水平社宣言が、世界初の人権宣言と言われるのです。

### 水平社運動の足あと

水平社の結成は、全国の差別に苦しんでいた人々に大きな朗報となり、またたく間に、その新しい考え方・運動は広がりました。差別する社会に対してすぐさま団結して行動を始めました。

### 「人権の世紀」をどうつくるか

しかし、水平社創立から100年が経った現在も、部落差別（同和問題）をはじめ、さまざまな人権問題が存在しています。

人が人を差別する世の中は、差別さ

れる者にとって不幸であり、また差別する者にとっても不幸です。「人権の世紀」である21世紀に生きる私たちは、「差別をする」か「差別をしない」かではなく、「差別をなくす」立場をとるのか「差別を放置する」立場をとるのかを問われています。私たちは差別のない未来を創り上げなければなりません。



水平社の理念を私たち一人一人が受け継ぎ、差別のない未来を創り上げるために、何を学び、どんな行動をするのか、また、集団・組織として、何をめざしていくのかを考えていく契機としていきたいと思えます。